

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.178

2014/09/27

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 近い将来山門湿原にも飛来期待



山門水源の森の東・大川でアユを捕らえたコウノトリ (14/09/06) ・岡清和会員撮影

「生物多様性の保全」をうたい文句に活動をしている本会ですが、2005年頃からシカ・イノシシの食害が拡大し危機感を抱きつつ日々食害防止に躍起になっています。湿原への全面的防獣ネット設置で一部の生物の再生が起動に乗ってきた昨今です。そうした中 森の東側の大川（塩津湾に流入する河川）に9月4日からコウノトリが飛来しました（9/10には8羽）。この場所には2年前にも飛来が確認されています。この場所に飛来した要因の一つに大川へのアユの遡上があるのではないかと思います。山門水源の森から琵琶湖に注ぐ大浦川もまたアユやビワマスが遡上し水田景観も似ています。このうちの1羽が9/16に1日だけですが大浦川にも飛来しました。とすれば水源の森上空をコウノトリが飛翔する日も近い将来実現するかも知れません。



枯死アカマツが目立つ中央湿原北側(14/08/30)



この上空をコウノトリが飛ぶ日も近い？

枯死アカマツ伐採進む(14/09/06)

アケボノソウ分布広がる(14/09/12)



一時期なりを潜めていたアカマツの枯死が昨年・今年と目立って来ました。特に中央湿原北側のアカマツ・コナラ林での被害が大きく、景観上も見苦しいため森林キーパーを中心に伐採を進めています。こうした作業も会員のみの作業ではとても追いつくことではありません。森林キーパーの重要性を日々感じています。かつて湿原の周りのあちこちに分布していたアケボノソウは、シカの食害でほぼ全滅状態になってきました。幸い過去に種子を採取して付属湿地で育種してきましたが、今では実生が沢山発生しており絶滅は回避できましたが遺伝子の多様性という点では問題がある可能性があります。



1987年から毎月湿原とその周辺7箇所で水温・pH・導電率、2箇所で水位の測定を続けています。いずれの測定地点もこの28年間多少の変動はありますが大きな変化はありません。大きな特徴は南部湿原（流入する沢が無い）の池塘のpH値が強い酸性を示す点です。これが高層湿原の1つの特徴でもあります。

2014/9/10の測定値	測定時刻	気温 ℃	水温 ℃	pH	導電率 μ S/cm
排水口	9:45	23.2	19.7	5.7	40
ハンノキ下	10:00		21.0	5.3	51
北部湿原	10:05		27.0	5.2	39
南部-北部流路	11:10		22.0	5.2	44
山地-中央湿原	11:20		19.8	5.6	47
南部湿原	10:45		22.0	3.5	34
四季の森	11:45		18.0	5.9	46

**水位**  
 北部湿原 +14.7cm  
 南部湿原 +30.0cm

湿原内の池塘は、2005年前後からのシカ・イノシシの侵入回数の増加（ヌタ場利用）でオオミズゴケが被ってしまった部分も出ていますが、水位も殆ど変化していません（季節変化はある）。

【付属湿地の除草】2004年「やまかど・森の楽舎」竣工と同時に造成した付属湿地は、今ではなくてはなら



付属湿地の除草(14/09/06)



除草の進んだ付属湿地(14/09/13)

ない森の一部になっており日々訪問者に楽しんでもらっています。湿原生息・分布する動植物の大半をここで観察できるようにと造ったものですが、その目的を十分果たせています。また初期の段階では予想しなかった希少種の保護という点でも重要な役割を果たしています。しかしこの湿地を目的通りの効果があるように維持管理することは、森の獣害対策同様多大な労力が必要です。観察し易いように・無秩序に特定の植物が分布を広げないようにと気を配る管理が必要です。これまで年間4~5回の除草を行ってきましたが、1回の除草に30人手間くらいが必要です。理想的には、一人が年中管理にかかり切りでちょうどいい加減です。

【久々に立派なものが・・・】山門水源の森では2006年8月3日に初めて南部湿原展望台付近でカ



カエンタケ(14/08/21)



カエンタケ(06/08/03)

エンタケが見つかり、2008年には森全体で発生し、その調査に5日間を費やすほどでした。しかし最近では発生が希な状態になっています。これはナラガレが少なくなってきたためです。

これまでカエンタケは枯れたミズナラ・コナラに発生していますが、今回の発生はコナラの枯れていない大木の根元で発生しています（地中に枯れた根があるのかも知れません）。



朔果

モヤモヤしたものが種子

ギンリョウソウ・シャクジョウソウは毎年観察できるのですが、ギンリョウソウモドキ（アキノギンリョウソウ）は2011年に初めて見られたものの発生直後から気温が低くなり大きく成長しなかった。今年は見事な群生が楽舎近くに発生しました。毎年この場所で発生しているのか昨年の花殻も残っています。



ギンリョウソウモドキ(14/09/12)

朔果を割ってみると肉眼的にはモヤモヤした（サギソウなどの種子のよう）種子が見られます。